

ヤマハ株式会社
2015年3月期
決算説明会

2015年 5月 1日



決算概要

■2015年3月期通期業績は、対前期増収増益

- ・楽器事業は、対前期増収増益
対前回予想では、販売管理費の増等により減益
- ・音響機器事業は、AV機器苦戦継続も
PA機器は二桁成長で対前期、対前回予想共に増収増益
- ・電子部品は、対前期大幅減収、営業損失も
対前回予想では、損失幅改善
- ・経常利益、当期利益は、それぞれ営業外収益増、
法人税等調整額の影響で、対前回予想でも増益

■中期経営計画の売上高、営業利益目標数値を 1年前倒しで達成

2015/3期 通期業績概要



(億円)

	14/3	15/3	前期比	前回予想	前回予想比
売上高	4,103	4,322	+5.3%	4,300	+0.5%
営業利益 (営業利益率)	260 (6.3%)	301 (7.0%)	+15.9%	300 (7.0%)	+0.5%
経常利益 (経常利益率)	261 (6.4%)	312 (7.2%)	+19.4%	300 (7.0%)	+4.1%
当期利益 (当期利益率)	229 (5.6%)	249 (5.8%)	+8.9%	210 (4.9%)	+18.7%

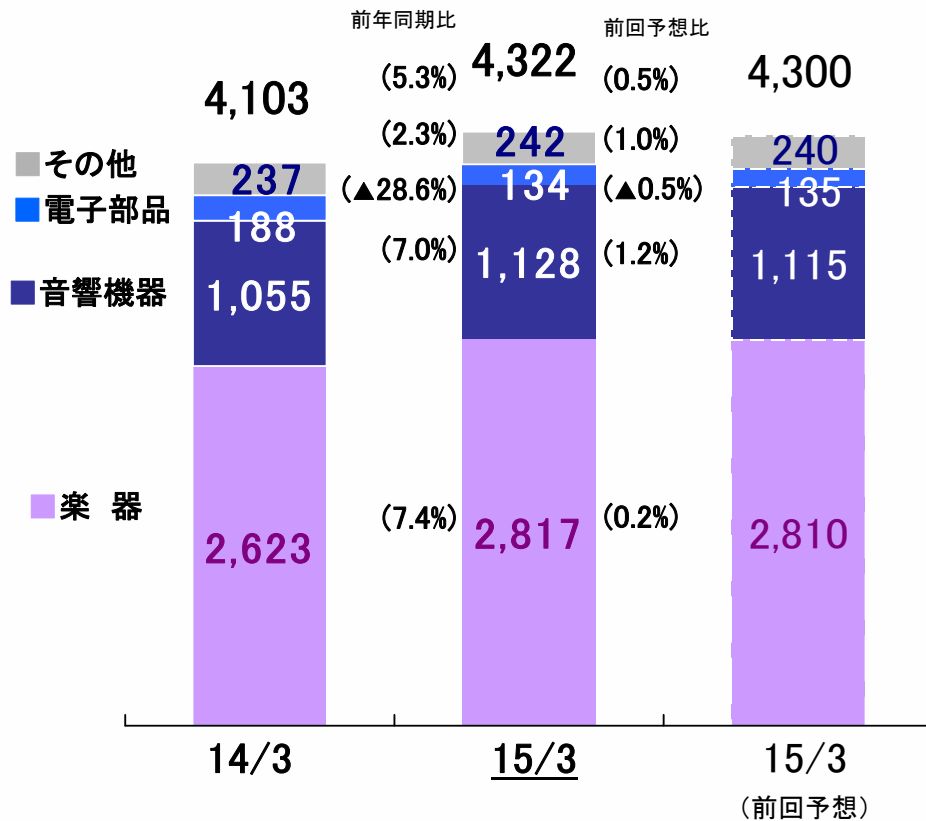
為替レート (円)

売上高	US\$	100	110	109
	EUR	134	139	140
利益	US\$	100	109	108
	EUR	129	141	140

2015/3期 通期事業別業績



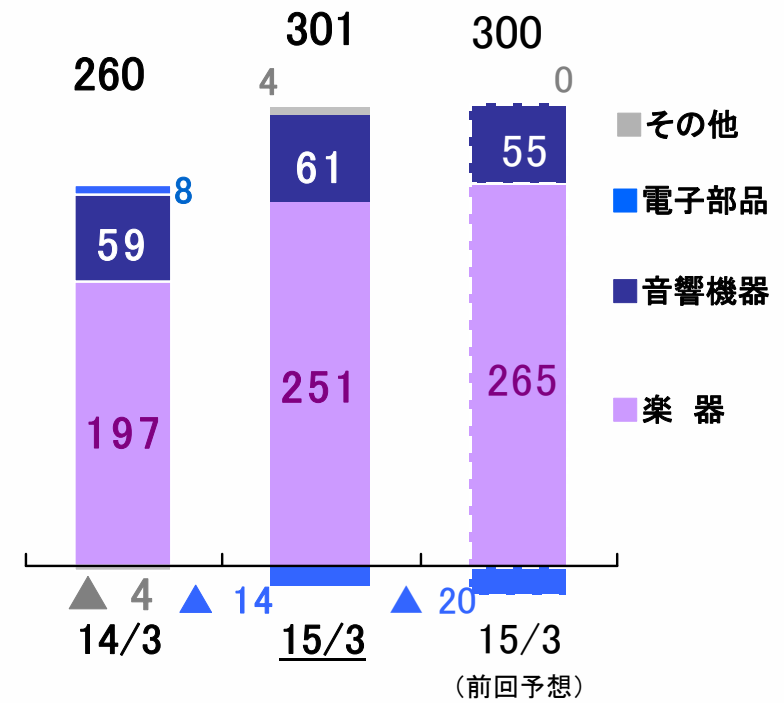
売上高



為替影響額 (億円)	
前期比較	+149 楽器 +100 音響機器 +46 電子部品 +2
前回予想比較	+5 楽器 +5

営業利益

(億円)

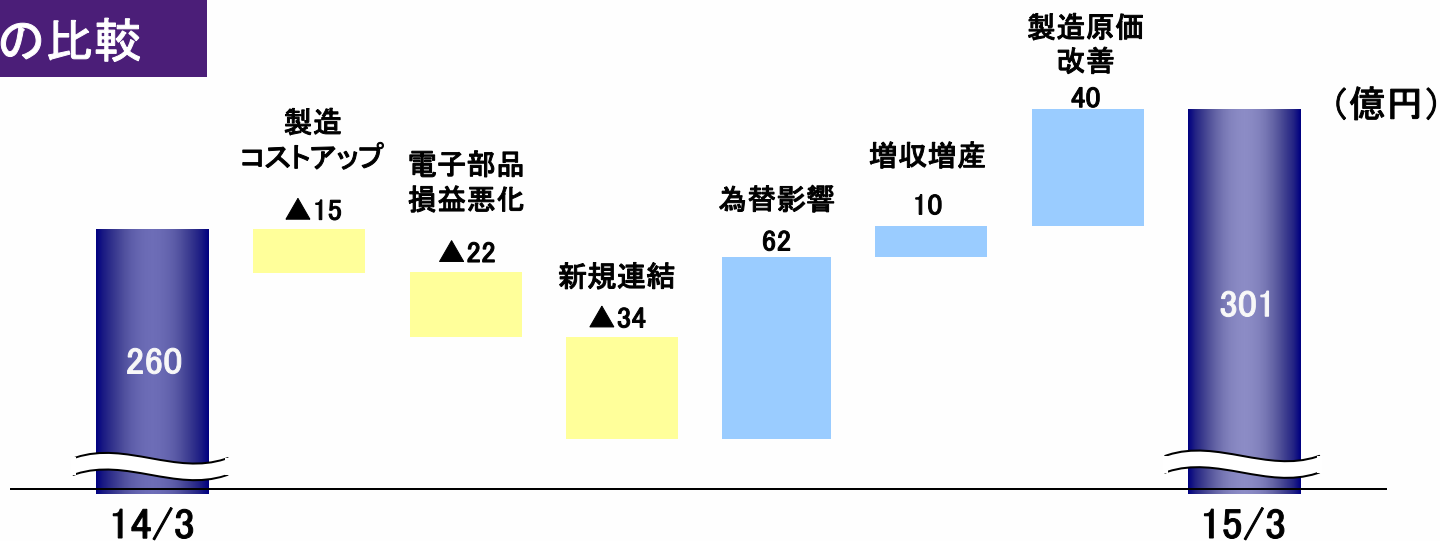


為替影響額 (億円)	
前期比較	+62 楽器 +50 音響機器 +14 電子部品 ▲1
前回予想比較	+7 楽器 +5 音響機器 +2

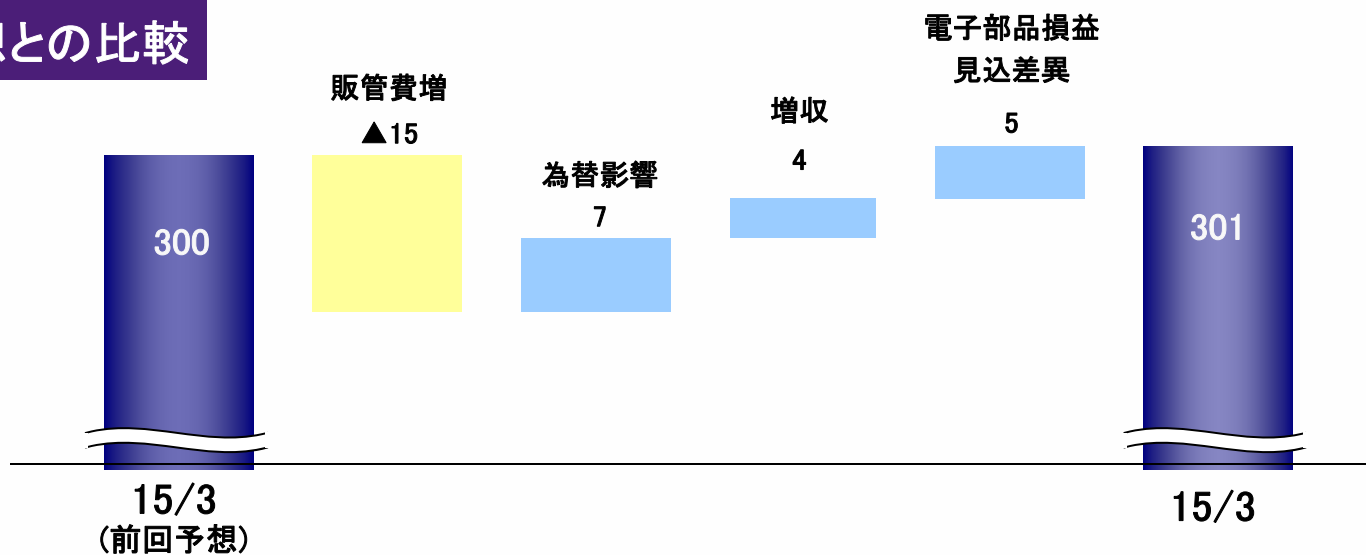
2015/3期 通期営業利益増減要因

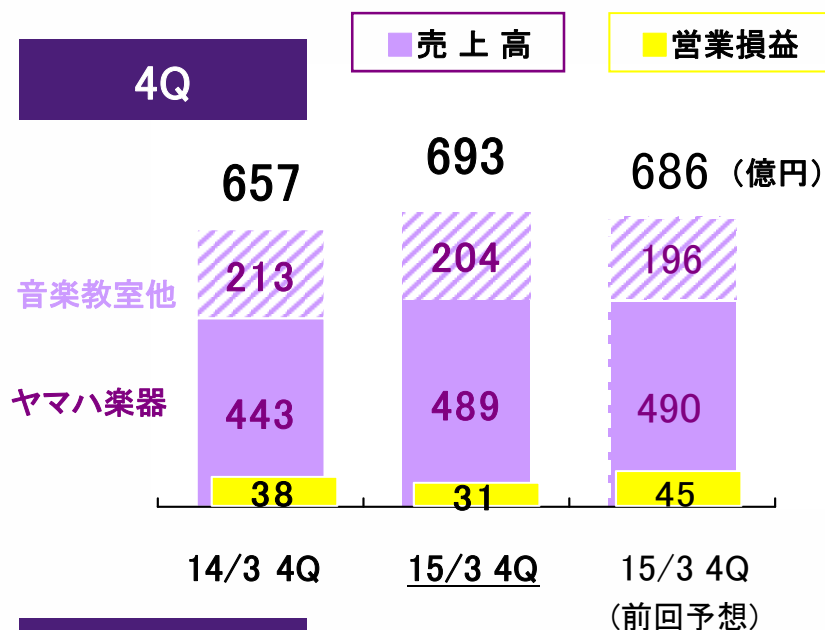


前期との比較



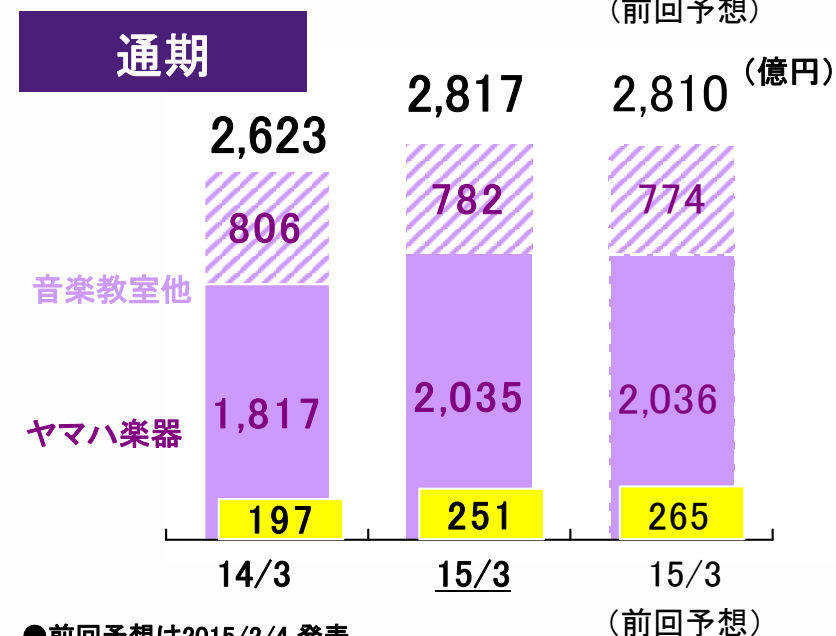
前回予想との比較





4Qの状況

- ・対前年同期、対前回予想共に増収
- ・電子楽器、管楽器、ギターが堅調に推移
- ・損益は、前年同期に消費増税前の駆け込み需要があったことで対前年同期で減益
対前回予想では販売管理費の増等で減益



通期の状況

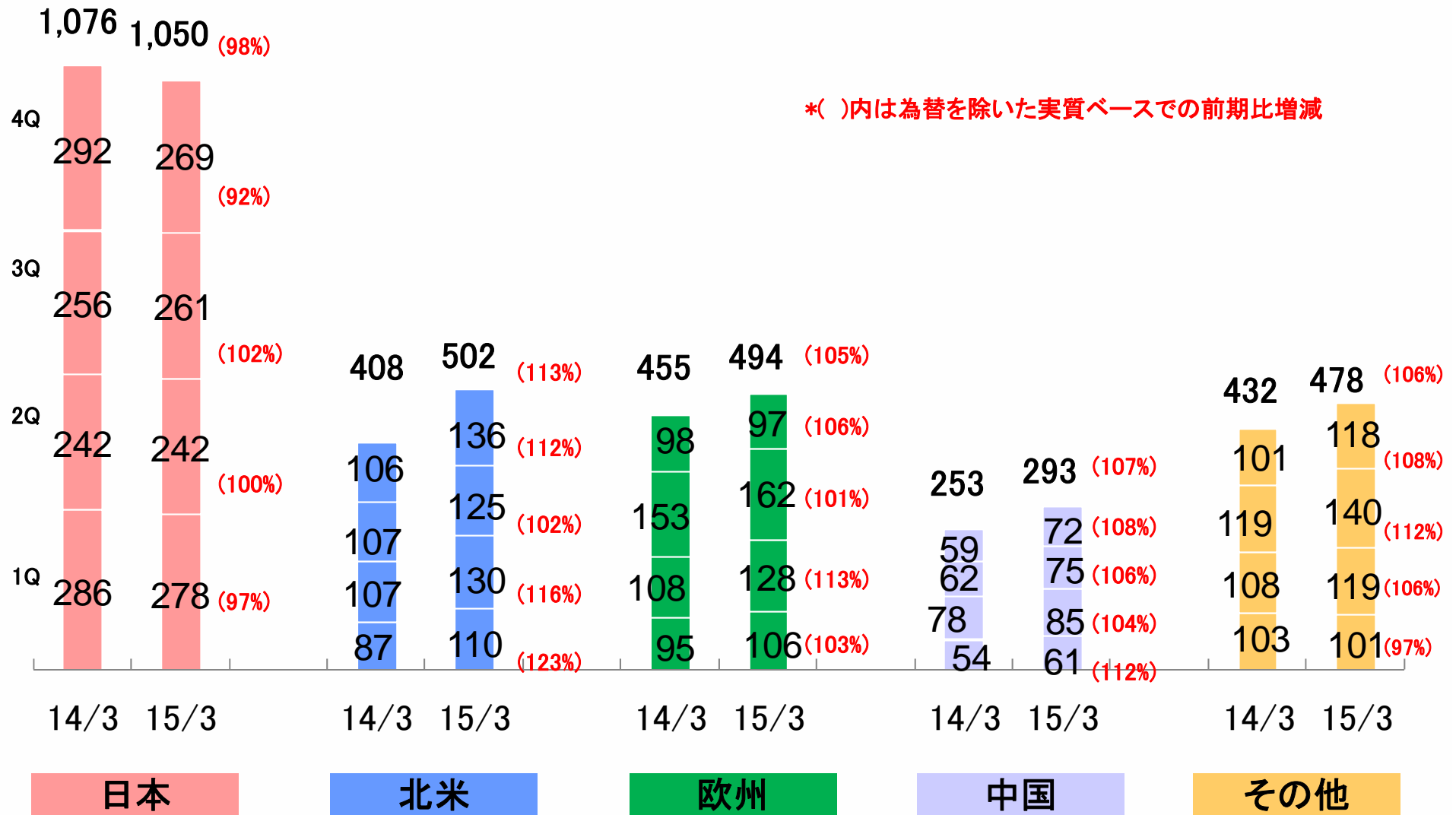
- ・対前期増収増益、対前回予想では増収減益
- ・電子楽器、管楽器、ギターが堅調に推移
- ・北米市場が好調
- ・日本を除く 欧州、中国、その他の市場も
実質成長で堅調

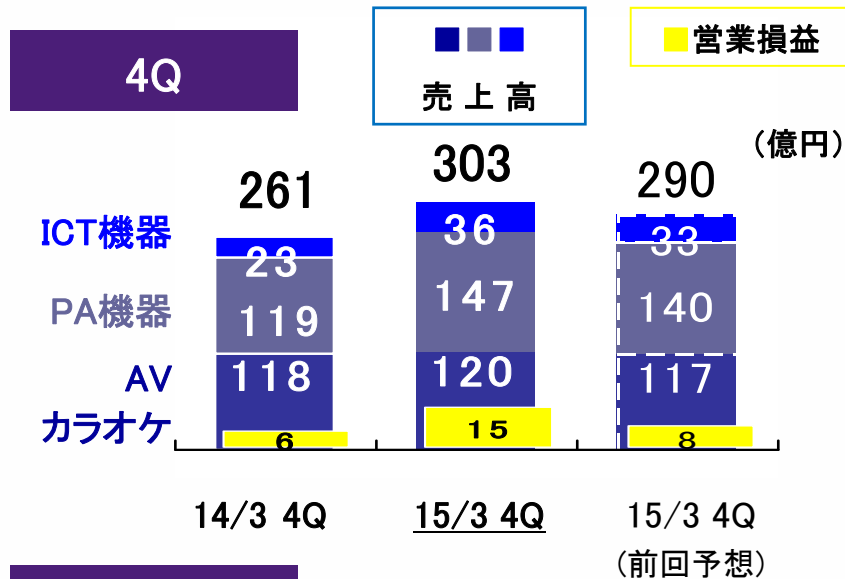
●前回予想は2015/2/4 発表

楽器事業(地域別の販売状況)



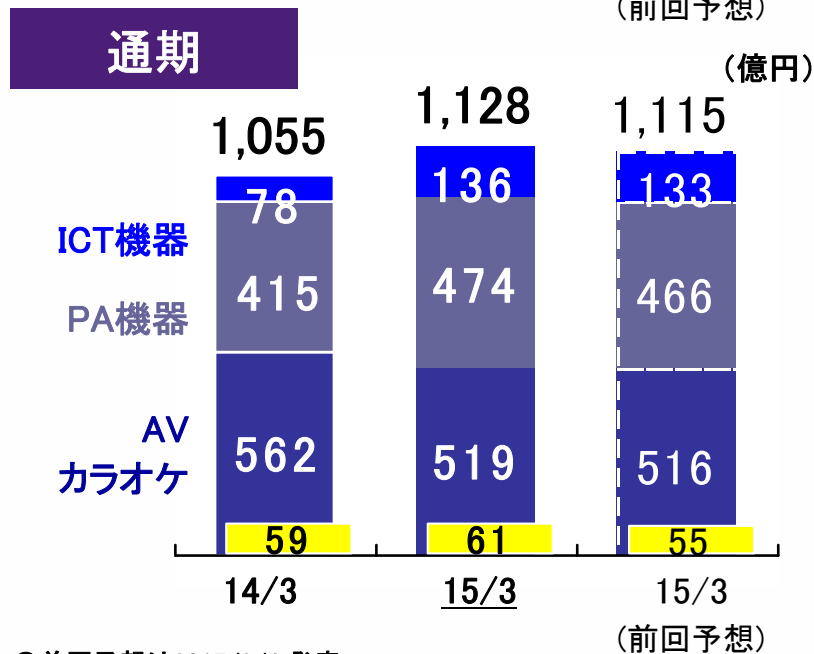
(億円)





4Qの状況

- ・対前年同期、対前回予想共に増収増益
- ・AV機器は、3Qに比べ回復の兆し
- ・PA機器は対前年同期二桁成長
- ・通信カラオケは、出荷増で対前期増収
- ・ルーターは、在庫調整等で減収



通期の状況

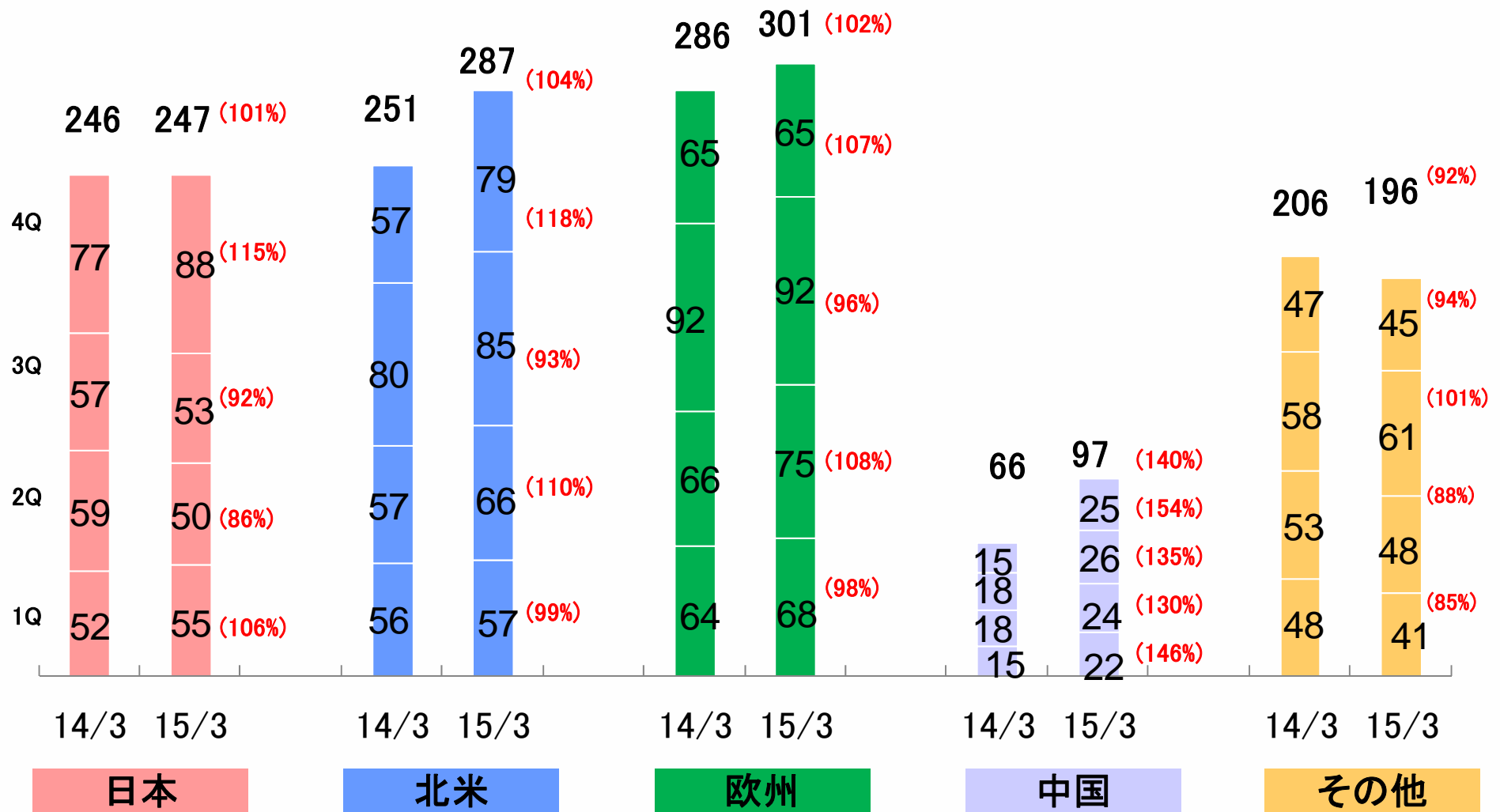
- ・対前期 対前回予想共に増収増益
- ・AV機器が期を通じて苦戦
- ・PA機器は欧州市場 日本の音響設備工事が好調に推移
- ・通信カラオケは、対前期減収
- ・ルーターは通期では前期並み

音響機器事業(地域別の販売状況)



(億円)

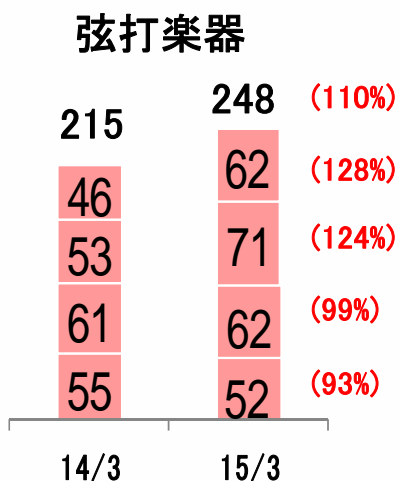
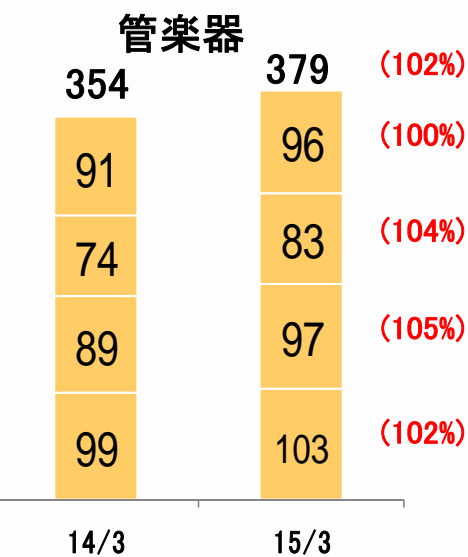
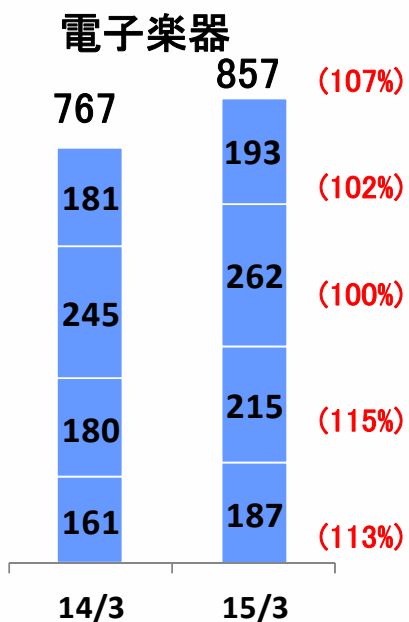
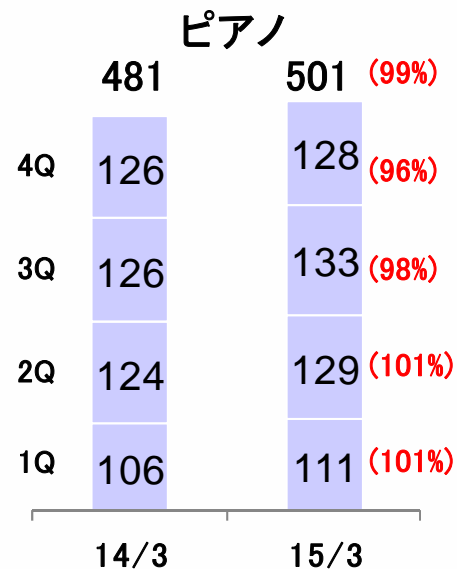
*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



楽器・音響機器事業(ヤマハ商品別販売状況)

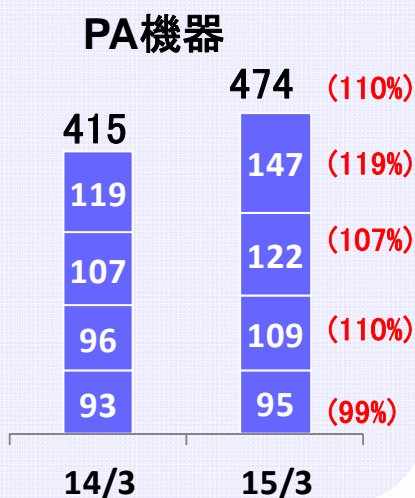
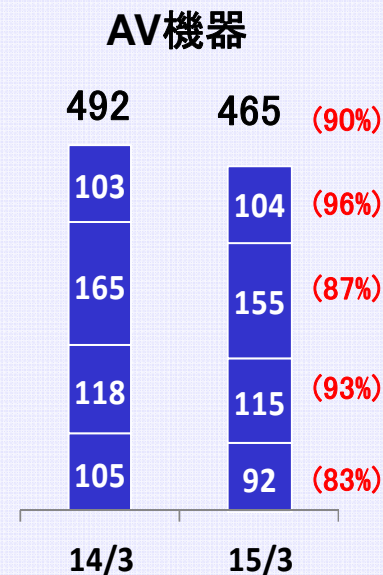


楽器事業

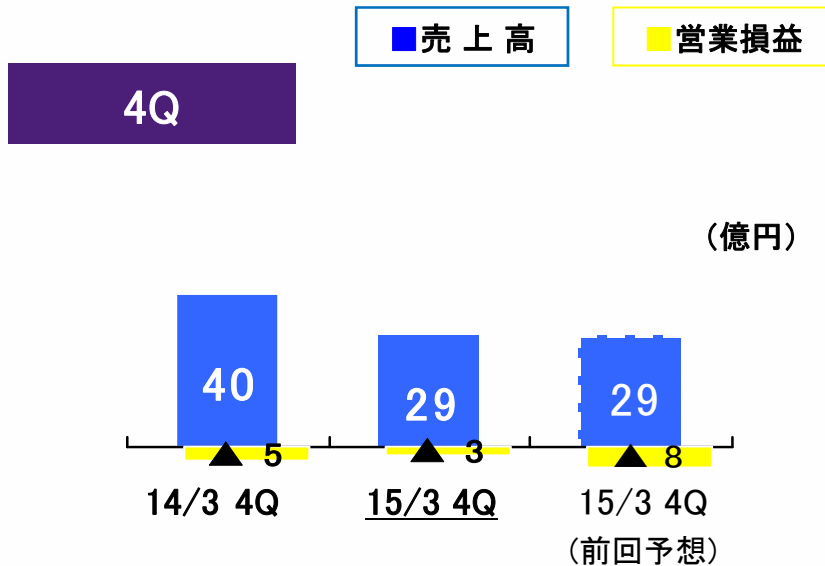


音響機器事業

(億円)

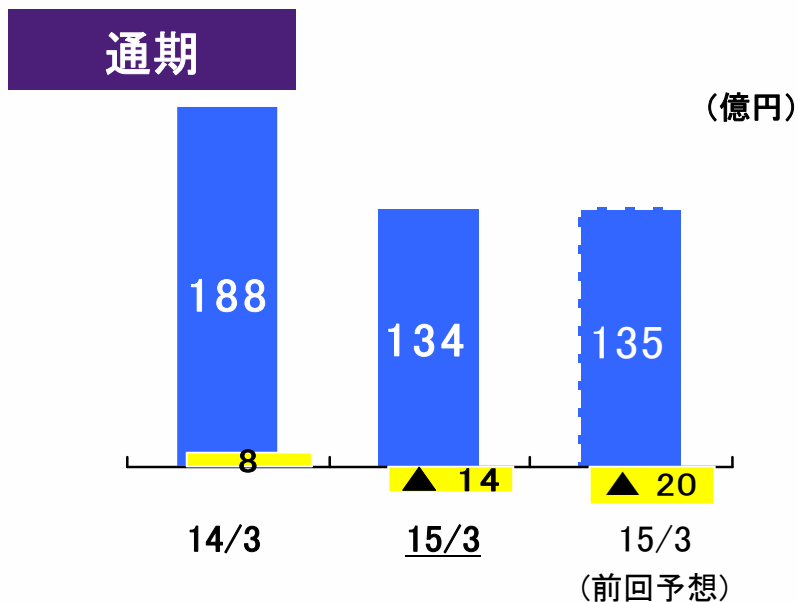


*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



4Qの状況

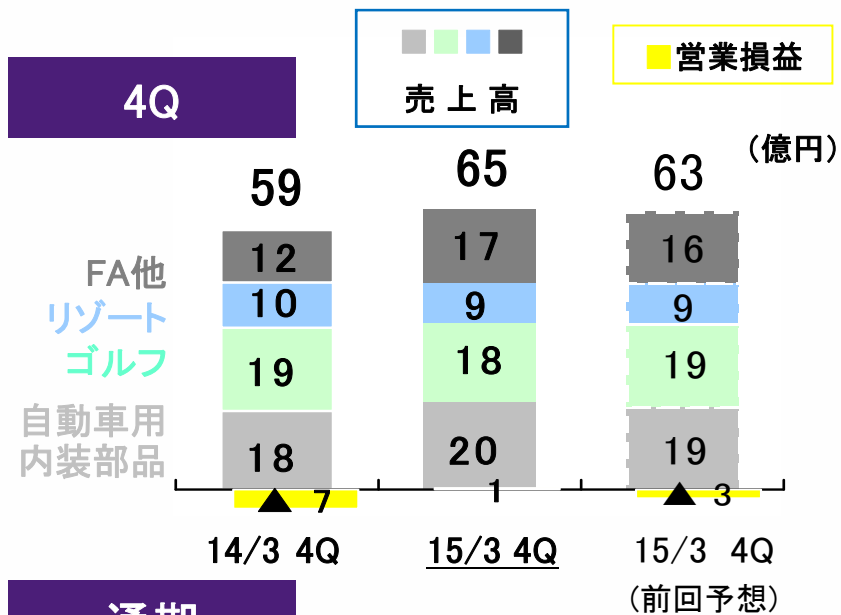
- ・対前年同期減収、前回予想並みで推移
- ・損益は、経費減、商品構成変化等により、前回予想で改善
- ・鹿児島セミコンの正式譲渡契約を締結



通期の状況

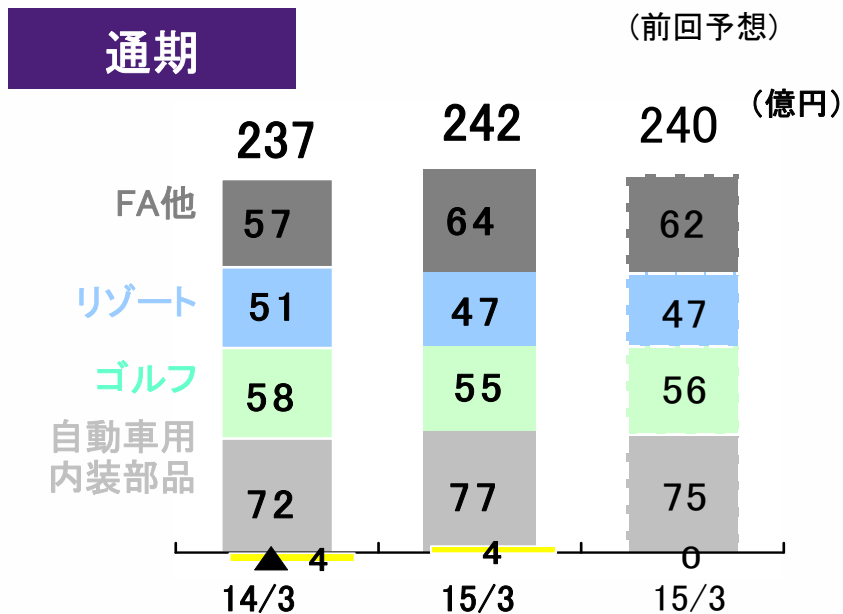
- ・対前期大幅減収、対前回予想並み
- ・期を通じて、アミューズメント市況の低迷、地磁気センサー等の納入先の苦戦継続
- ・損益は、通期営業損失も前回予想からは改善

その他の事業



4Qの状況

- ・対前年同期、前回予想共に増収増益
- ・自動車用内装部品は堅調に推移
- ・FA機器は、受注回復基調で好調
- ・リゾートは冬季集客苦戦で対前年同期減収



通期の状況

- ・対前期、前回予想共に増収
- ・自動車用内装部品は対前期増収
- ・FA機器はスマートフォン関連需要で堅調
- ・ゴルフは対前期減収
- ・損益は、FA機器、自動車内装部品の増益により対前期、対前回予想共に増益、黒字化

業績予想前提

- 楽器事業は、各市場で着実な成長
中国市場の売上成長継続
- 音響機器事業は、デジタルミキサー新商品等投入
商業空間向け商品強化、販売網整備により成長継続
- 電子部品事業は構造改革による固定費削減等で損益改善

- 音楽教室事業の運営形態変更に伴う減収影響
・連結業績への影響は売上高で▲124億円の減収想定 損益影響は軽微

- 為替前提 US \$ 120円 ユーロ130円 対前期で増収減益影響

2016/3期 業績予想



➤2016年3月期は、対前期増収増益を想定

(億円)

	15/3	16/3予想	増減額	伸び率
売上高	4,322	4,350	+28	+0.7%
営業利益 (営業利益率)	301 (7.0%)	340 (7.8%)	+39	+12.8%
経常利益 (経常利益率)	312 (7.2%)	330 (7.6%)	+18	+5.7%
当期利益 (当期利益率)	249 (5.8%)	255 (5.9%)	+6	+2.3%

為替レート (円)

売上高	US\$	110	120
	EUR	139	130
利益	US\$	109	120
	EUR	141	130

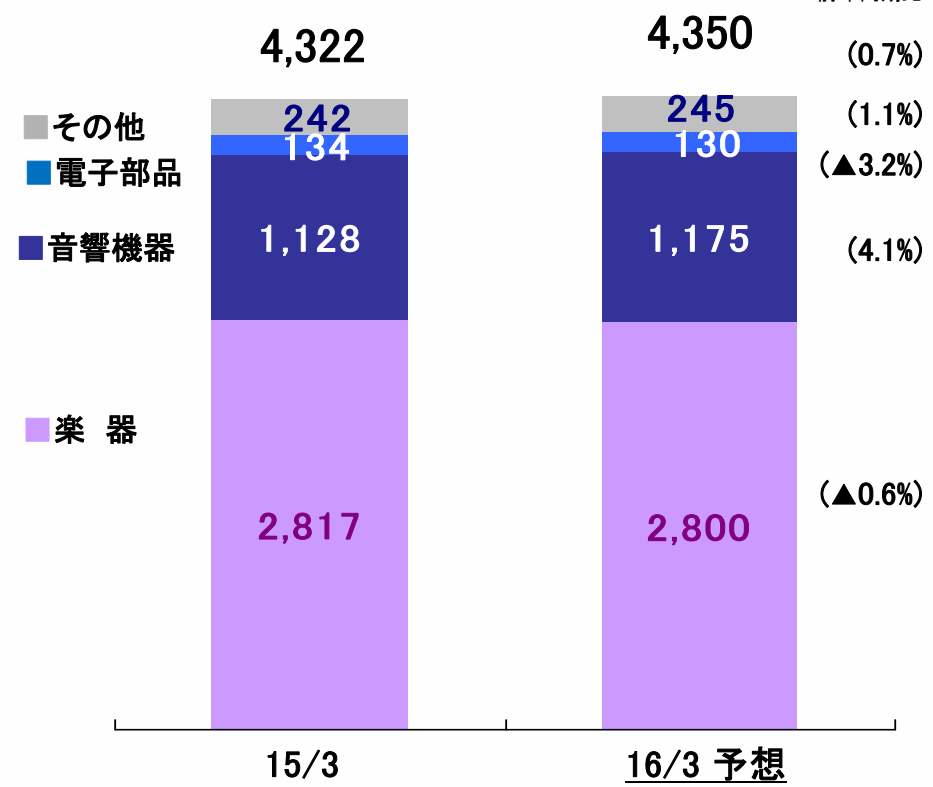
2016/3期 通期事業別業績予想



売上高

(億円)

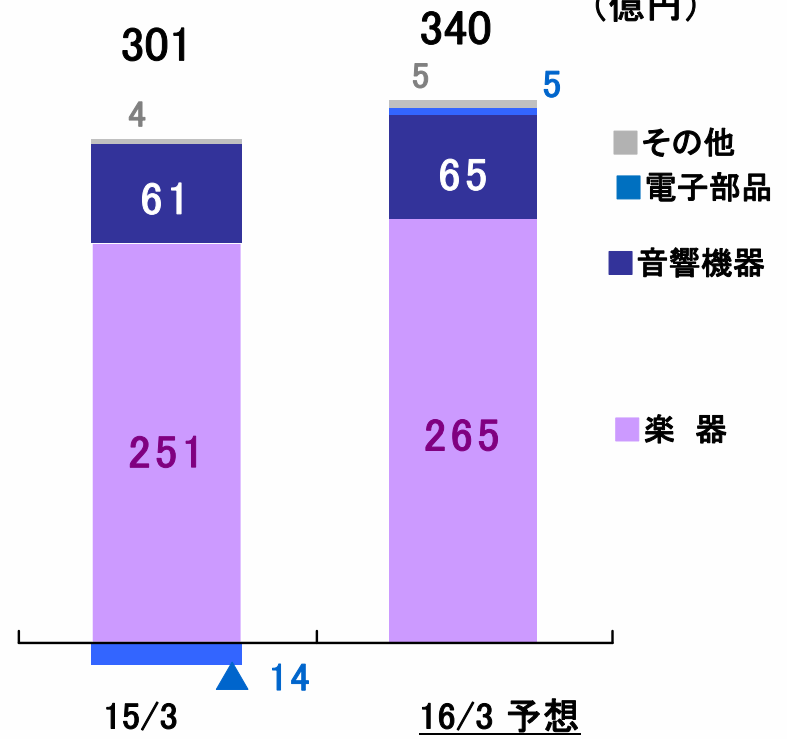
前年同期比



為替影響額 (億円)	
前期比較	+57 楽器 +43 音響機器 +12 電子部品 +2

営業利益

(億円)



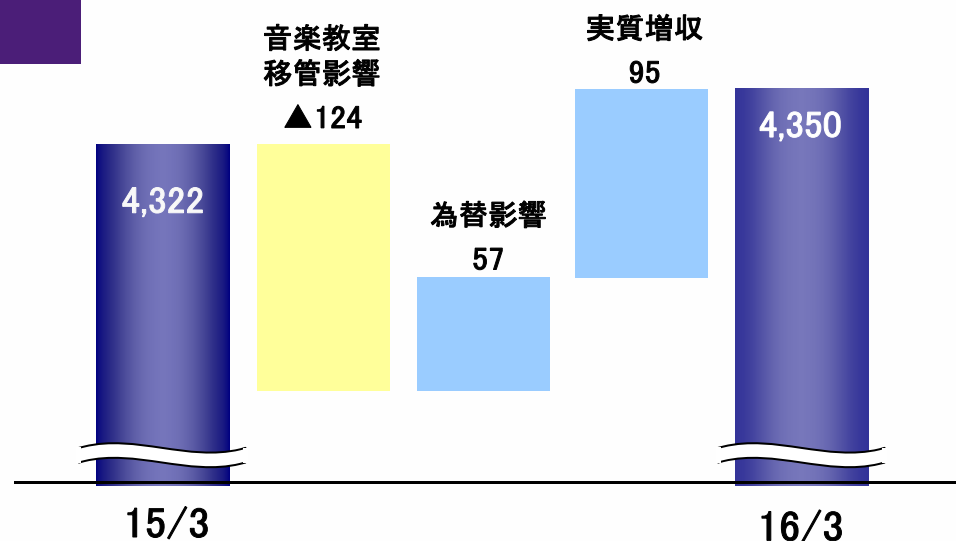
為替影響額 (億円)	
前期比較	▲35 楽器 ▲19 音響機器 ▲14 電子部品 ▲1

2016/3期 売上高・営業利益予想増減要因

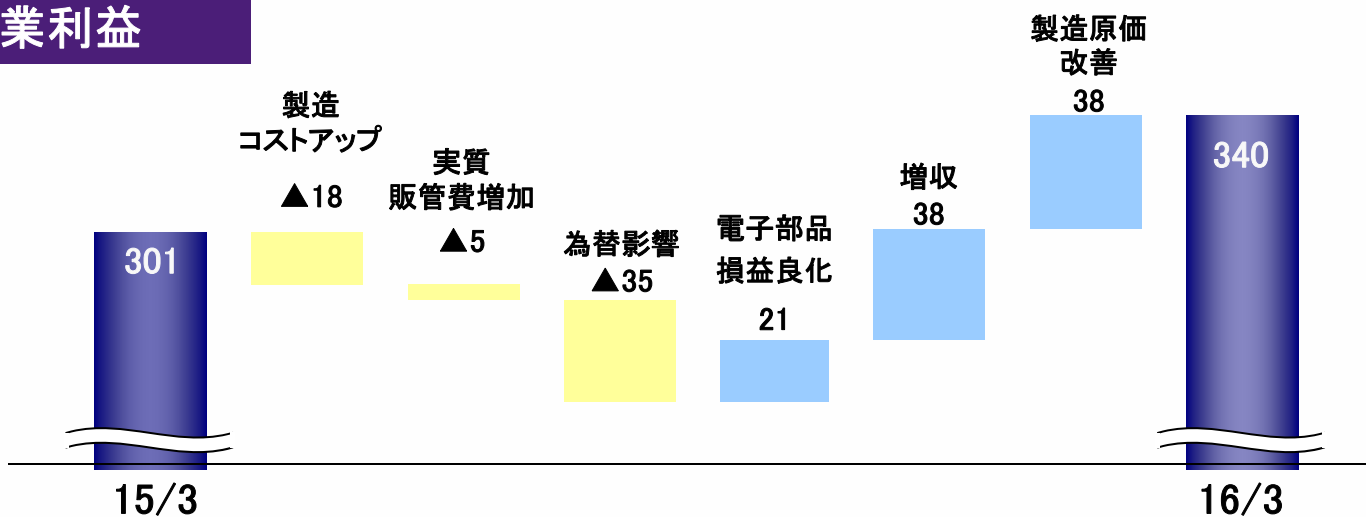


(億円)

売上高



営業利益

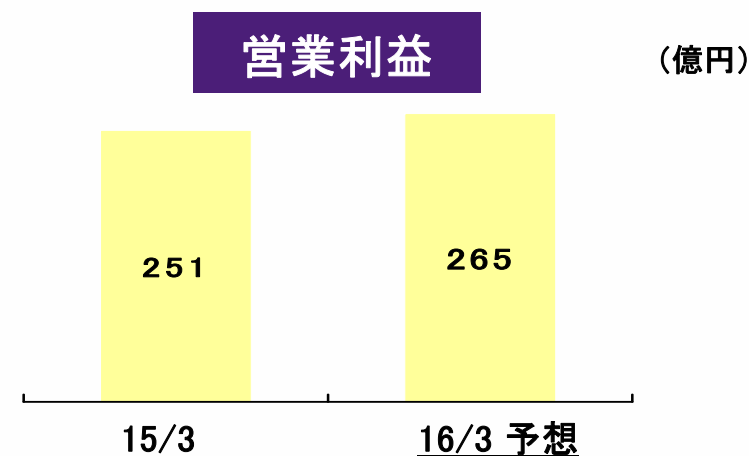
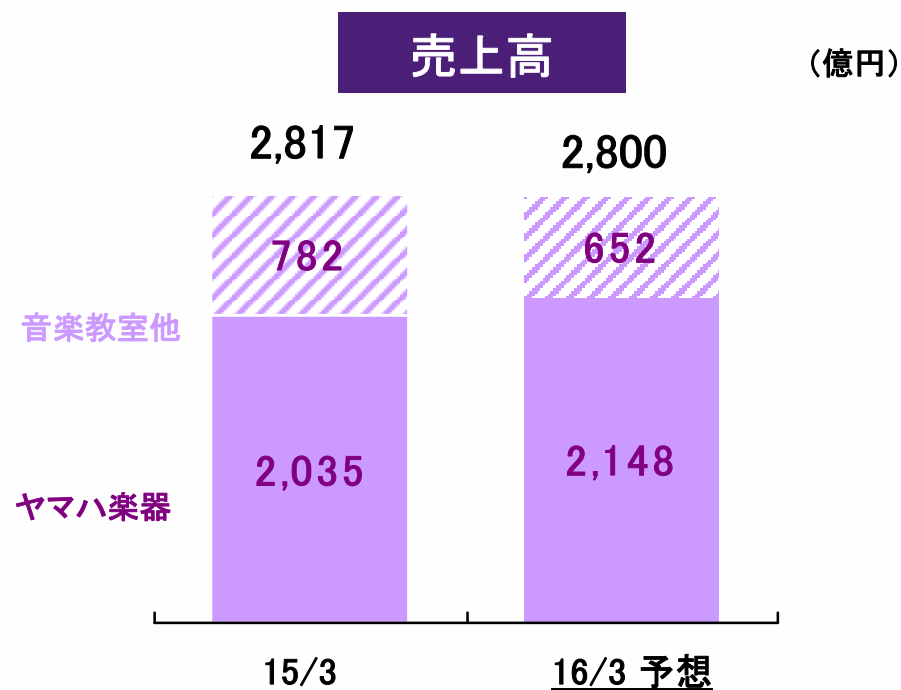


楽器事業（予想）



通期予想

- ・音楽教室の運営形態変更に伴い若干の減収
- ・各楽器ジャンルで着実な成長
- ・中国市場でピアノ、電子楽器中心に成長

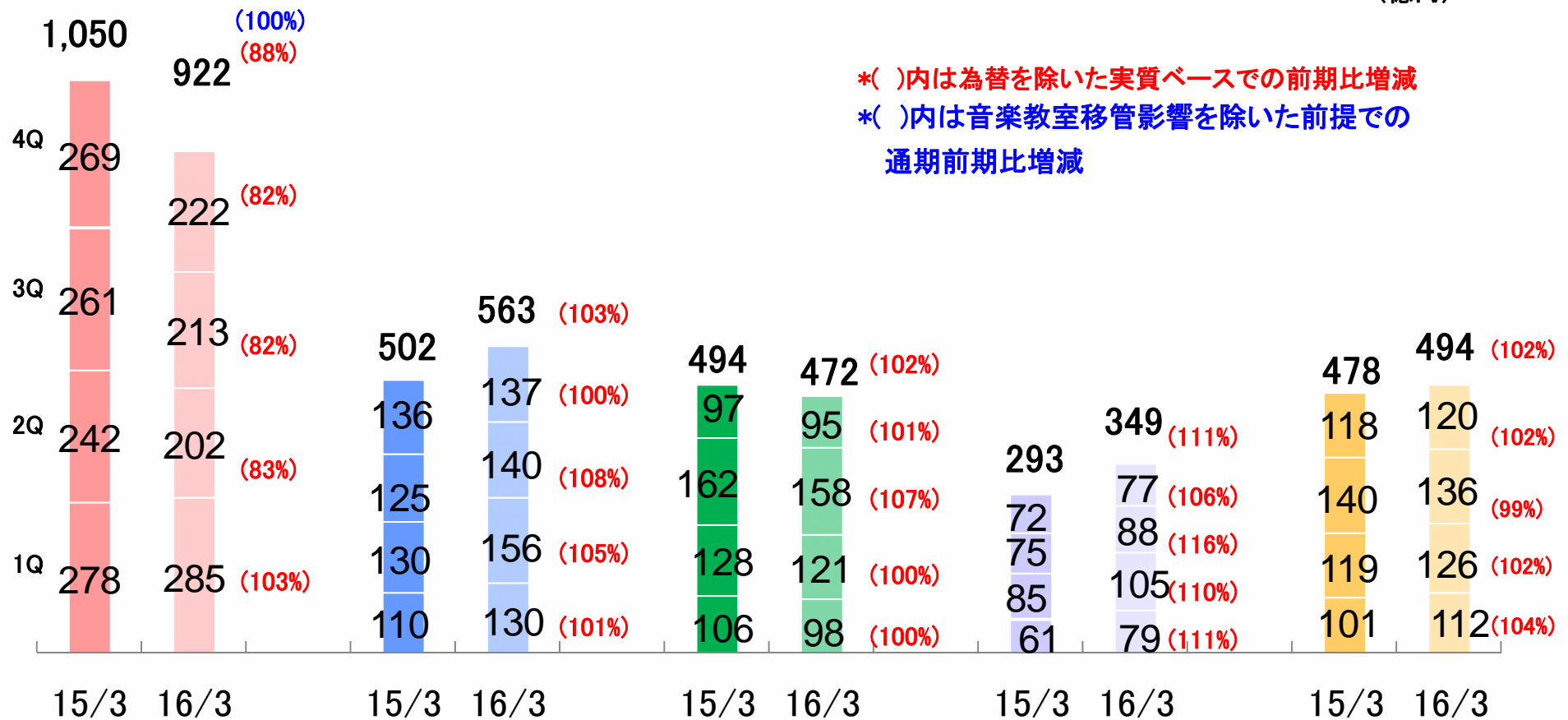


楽器事業(地域別の販売予想)



【楽器販売予想 (ソフト、音楽教室等を含む)】

(億円)



* ()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減
 *()内は音楽教室移管影響を除いた前提での通期前期比増減

日本 北米 欧州 中国 その他

音響機器事業（予想）

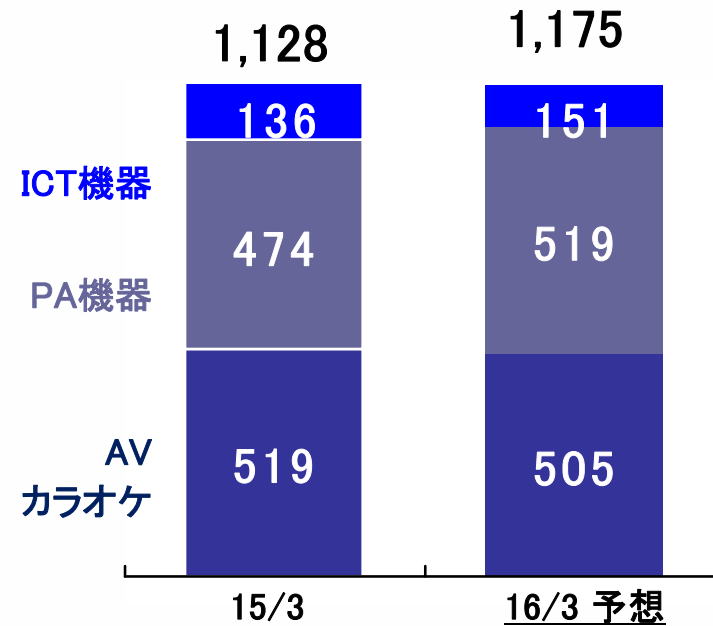


通期予想

- ・対前期増収増益
- ・AV機器は新商品投入等で回復を目指す
- ・PA機器は、デジタルミキサー新商品等を中心に成長加速
- ・カラオケは、減収想定
- ・ルーターは、流通在庫適正化等で成長

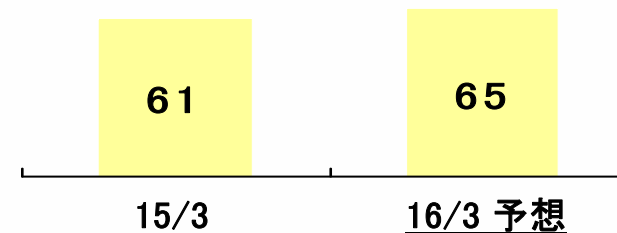
売上高

(億円)



営業利益

(億円)

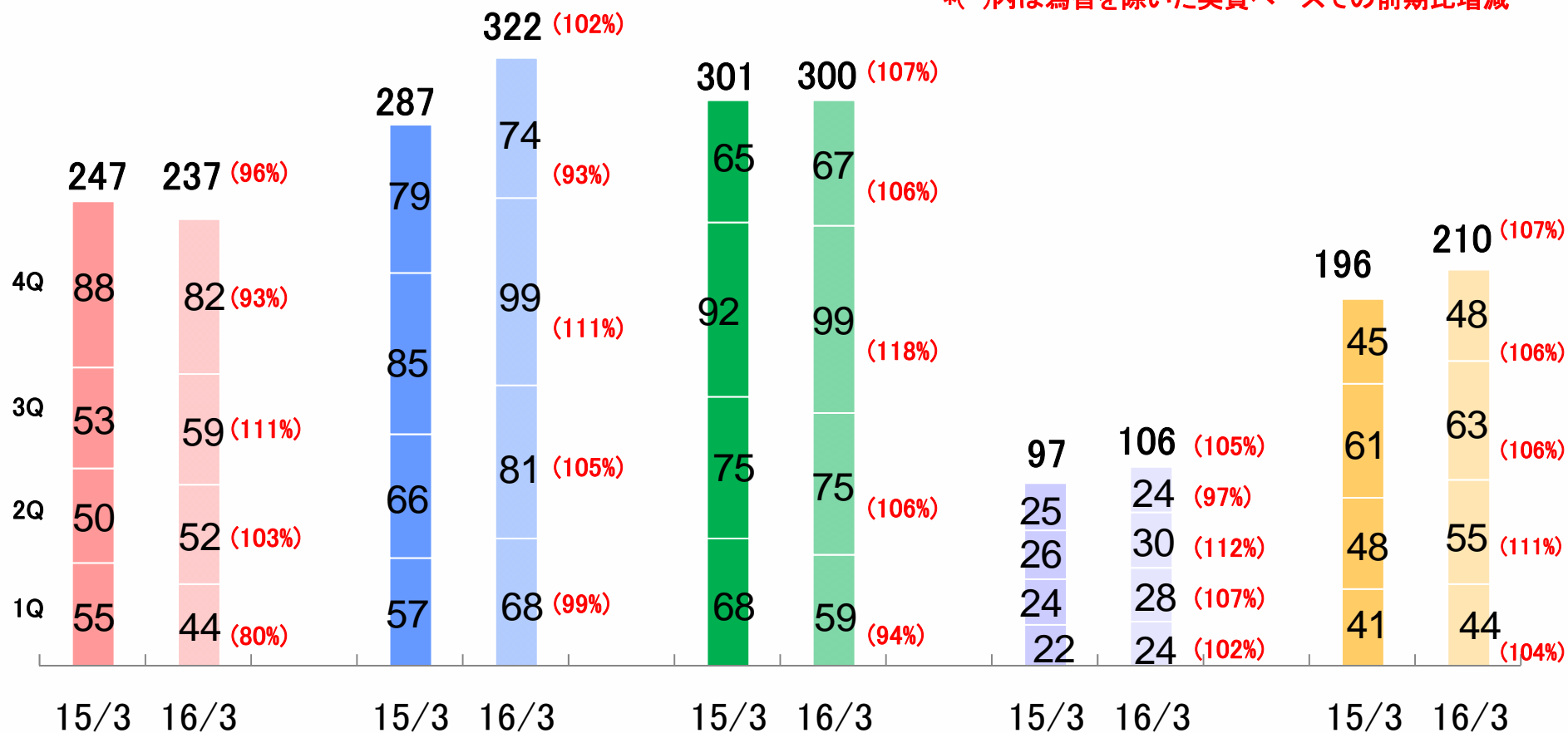


音響機器事業(地域別の販売予想)



(億円)

*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減



日本

北米

欧州

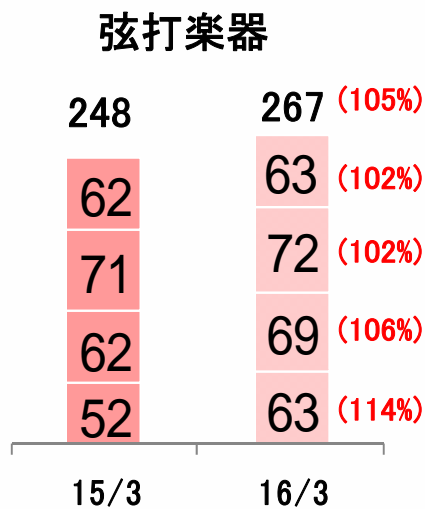
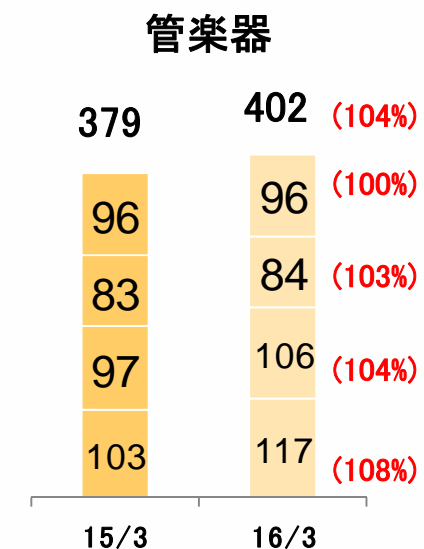
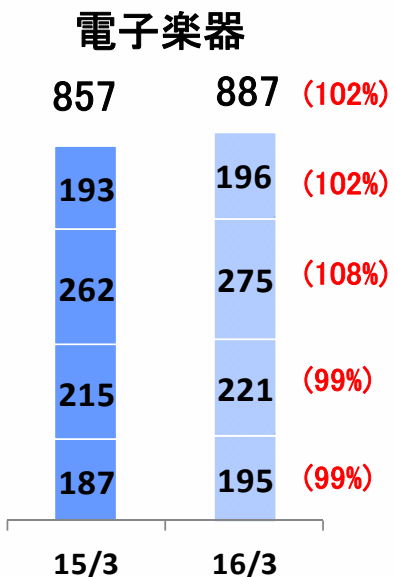
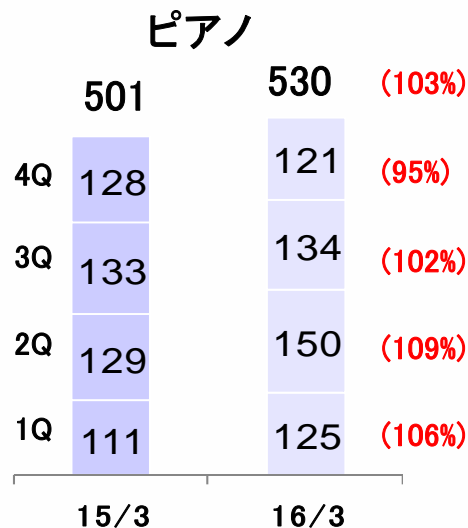
中国

その他

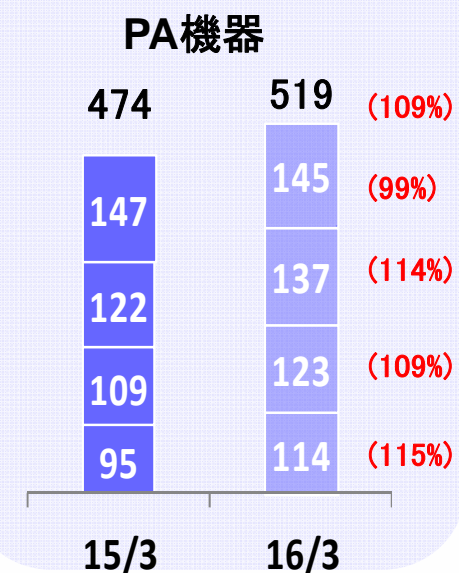
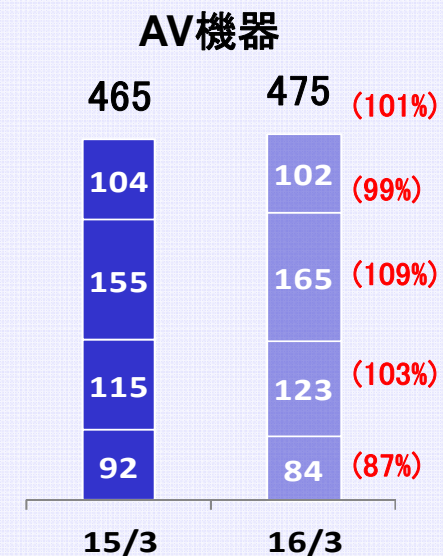
楽器・音響機器事業(主要商品別販売予想)



楽器事業



音響機器事業 (億円)



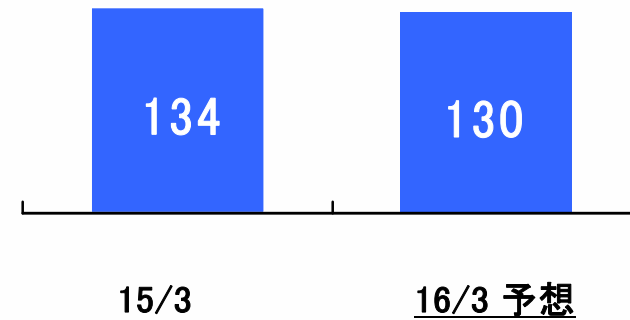
*()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

電子部品事業（予想）



売上高

（億円）

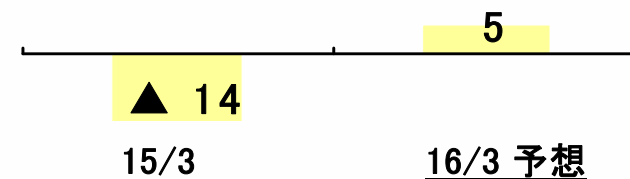


通期予想

- ・対前期減収
- ・構造改革に伴う固定費削減等により黒字化
- ・新開発のアミューズメント向けデバイスの販売に注力
- ・地磁気センサーでは、新顧客獲得強化

営業利益

（億円）

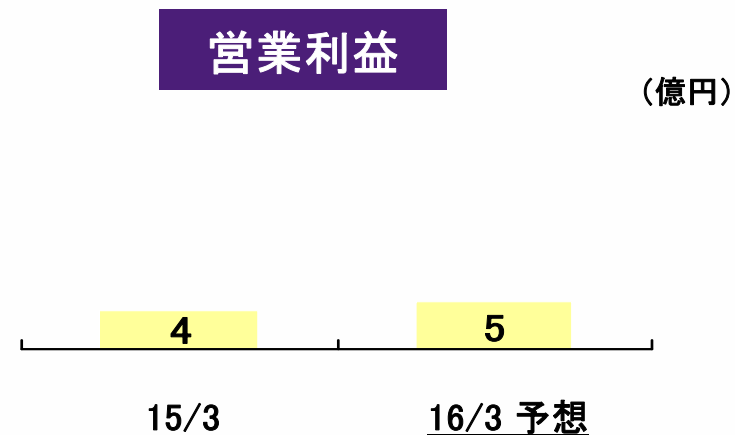
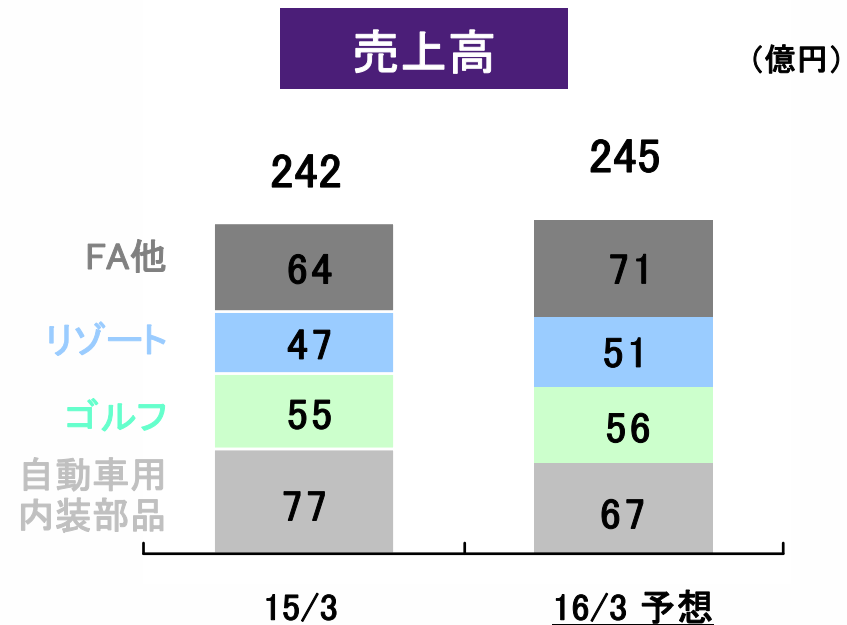


その他の事業（予想）



通期予想

- ・前期並みの売上高、営業利益
- ・FA機器は、スマートフォン関連で増収
- ・自動車用内装部品は、新モデル減に伴い減収
- ・リゾートは増収想定

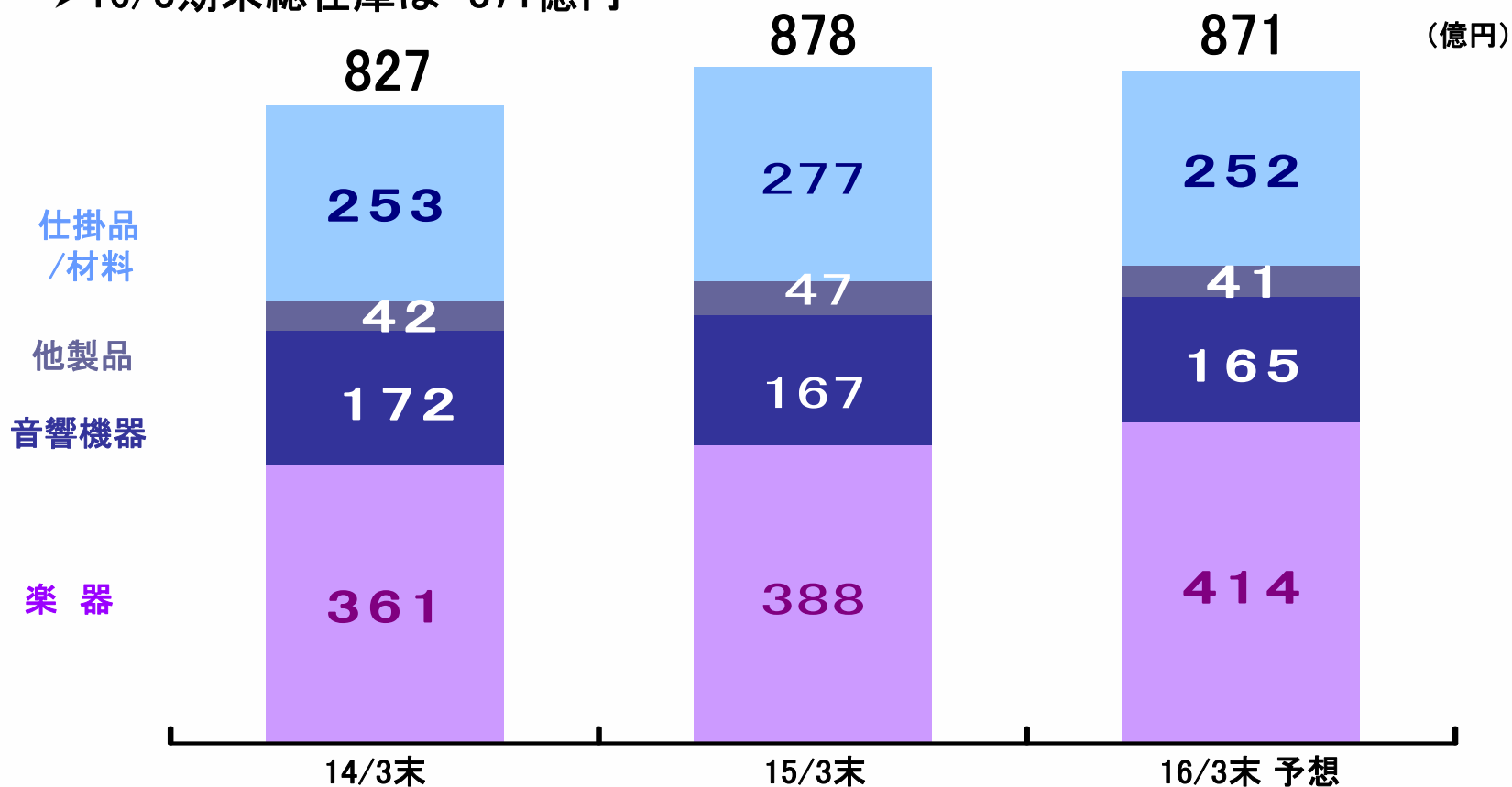


棚卸資産



➤15/3期末総在庫は 878億円 (前回予想は 879億円)

➤16/3期末総在庫は 871億円



為替影響額 (億円)	
前期比較	+36
前回予想比較	+3

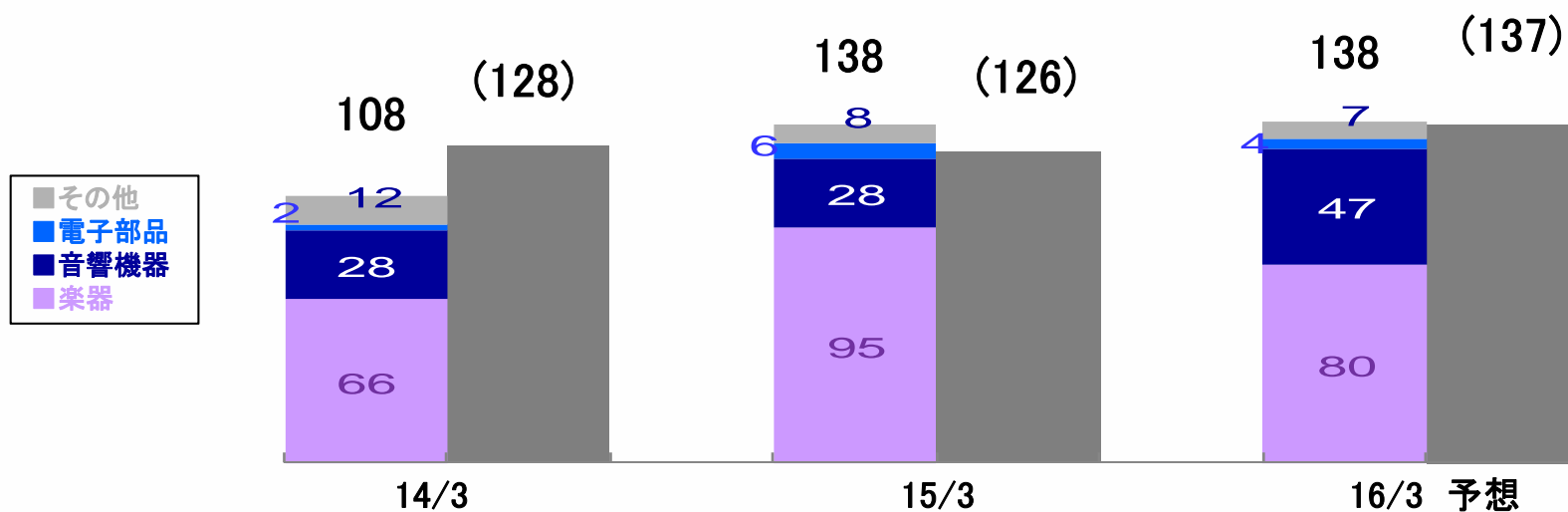
為替影響額 (億円)	
前期比較	▲1

設備投資額・減価償却費/研究開発費

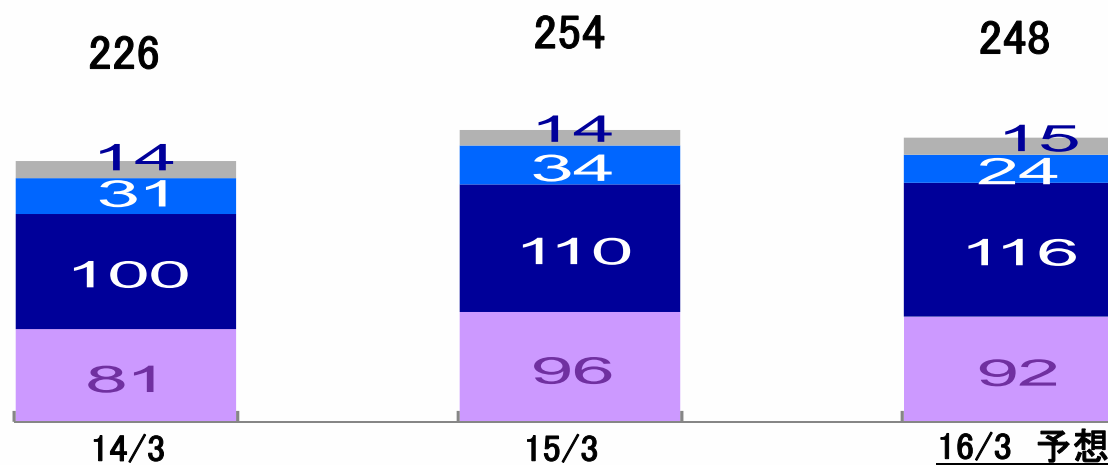


設備投資額(減価償却費)

(億円)



研究開発費



貸借対照表



(億円)

	14/3末	15/3末	16/3末 予想
現金	606	793	943
預金			
売上債権	567	603	565
棚卸資産	827	878	871
他流動資産	145	202	206
固定資産	2,244	2,824	2,790
資産計	4,389	5,300	5,375
仕入債務	216	232	195
借入金	88	119	104
他負債	1,337	1,462	1,402
純資産計	2,748	3,488	3,674
負債純資産計	4,389	5,300	5,375

経営数値推移



(億円)

	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3 予想	中計目標 16/3
売上高	3,739	3,566	3,669	4,103	4,322	4,350	4,300
営業利益 (営業利益率)	132 (3.5%)	81 (2.3%)	92 (2.5%)	260 (6.3%)	301 (7.0%)	340 (7.8%)	300 (7.0%)
ROE	2.1%	—	1.9%	9.2%	8.1%	7.1%	10%
FCF	129	19	▲49	103	200	245	(3年間) 500

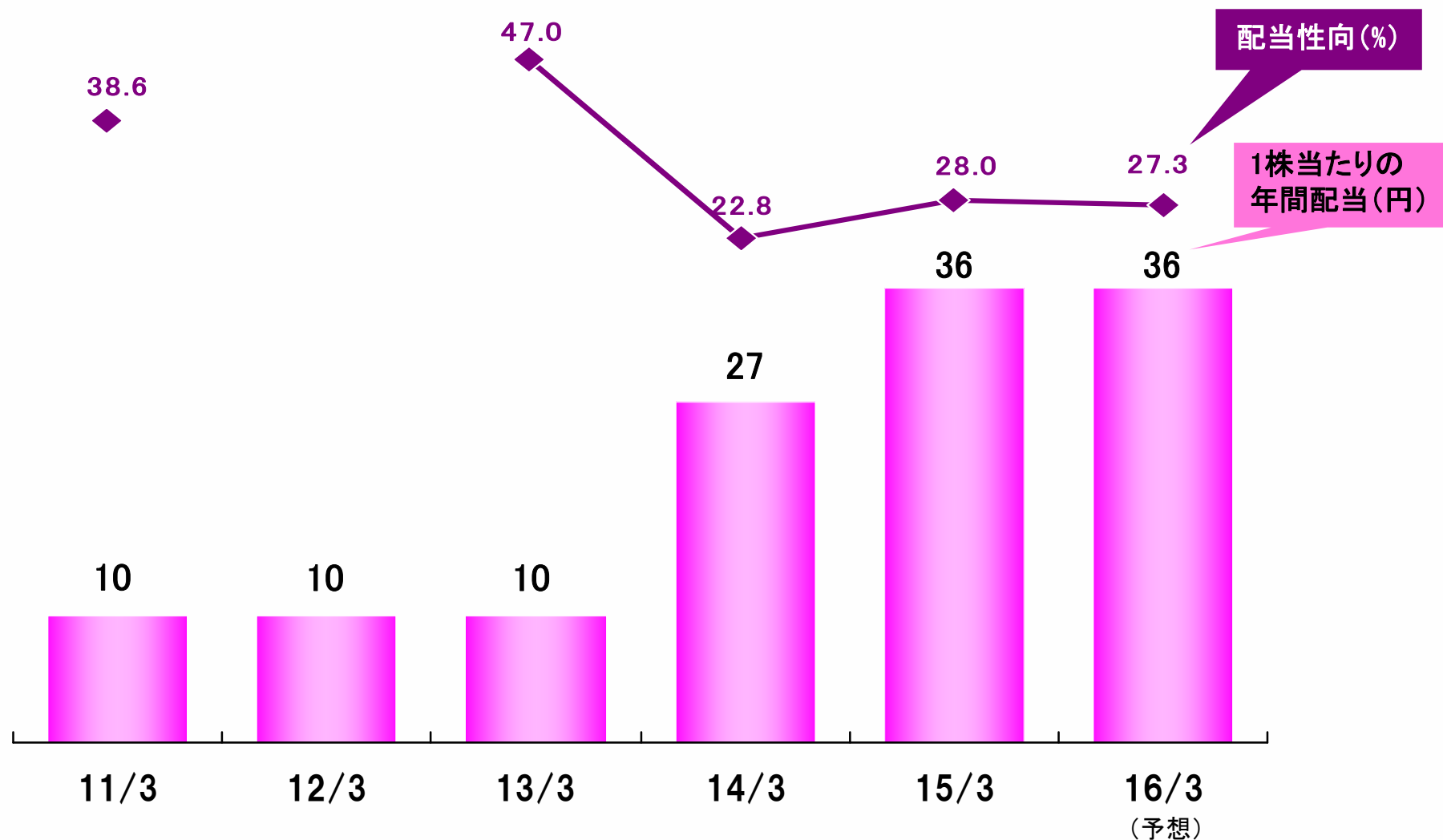
為替レート (円)

売上高	US\$	86	79	83	100	110	120	85
	EUR	113	109	107	134	139	130	115
利益	US\$	86	79	82	100	109	120	85
	EUR	115	112	103	129	141	130	115

株主還元



- 2015/3期の年間配当は、期末配当を前回予想から6円増配し、36円
- 2016/3期の年間配当も36円を予定



付属資料

通期営業外損益、特別損益



(億円)	14/3 通期	15/3 通期	16/3 通期予想
営業外損益			
金融収支	26	38	21
その他	▲25	▲27	▲31
計	1	11	▲10
特別損益			
固定資産処分損益	3	0	▲1
その他	▲6	▲27	1
計	▲3	▲27	0
法人税他			
法人税等	58	73	71
法人税等調整額	▲31	▲39	2
少数株主利益	2	2	2
計	29	36	75

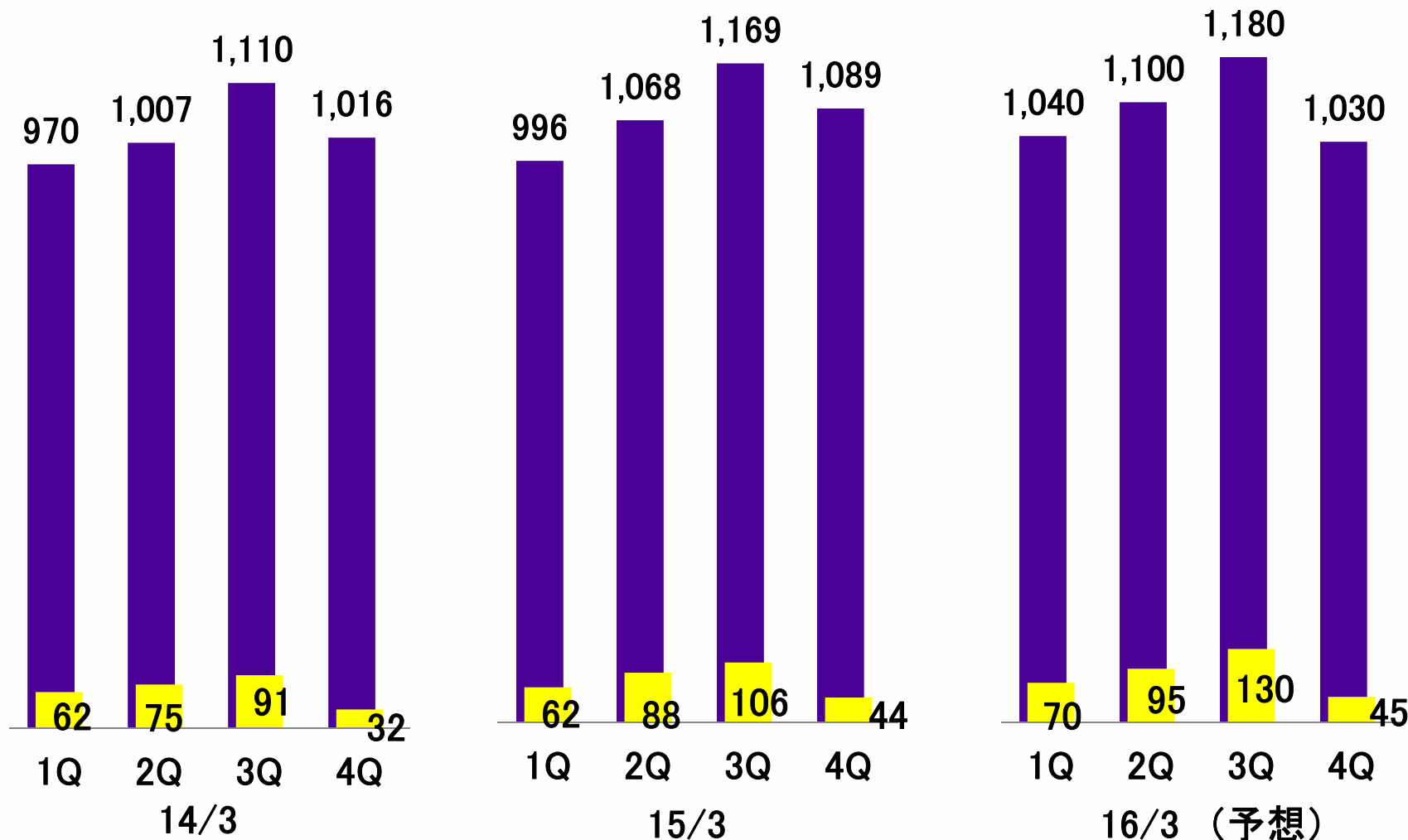
投資有価証券売却益
10
構造改革費用
▲9
YMMI操業停止損失他
▲7

構造改革費用
▲18
固定資産減損
▲9

四半期別売上高／営業利益(全体)



(億円)

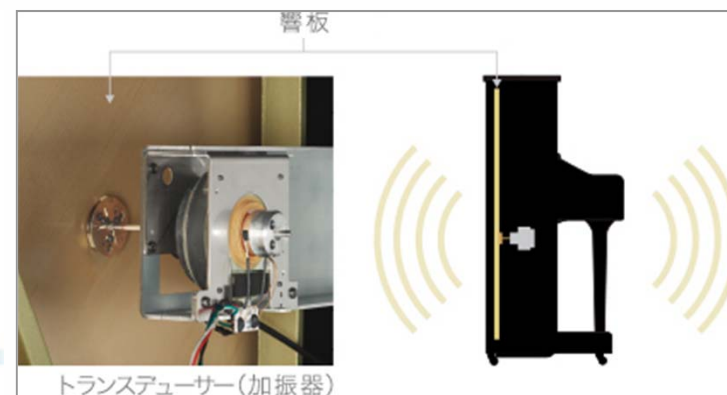


売上高(通期)	4,103
営業利益(通期)	260

売上高(通期)	4,322
営業利益(通期)	301

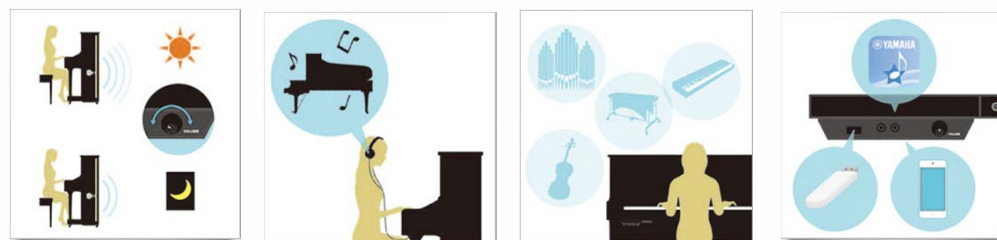
売上高(通期)	4,350
営業利益(通期)	340

トランスアコースティック™で新次元のピアノ体験 『トランスアコースティック™ピアノ』



アコースティックピアノは、一般的に弦の振動が駒を介して響板に伝わり音が響きますが、トランスアコースティック™は、トランスデューサー(加振器)が電子音の情報を振動に変換して響板に伝える技術です。
ピアノの響板がスピーカーの役割となりピアノ全体が共鳴するアコースティックならではの豊かな響きが生まれます。

- ◇トランスアコースティック™モードで音量を自在にコントロール
- ◇豊富な音色で多彩な演奏が可能
- ◇スマートフォンやタブレット端末など、外部機器とつないで 広がる新たな楽しみ方
- ◇アコースティックならではのタッチと自然で豊かな響き



TransAcoustic™ 『FYU11SHTA』
980,000円(税抜)

(2015年3月発売)

2016/3期 期待の商品



大規模ライブコンサートにおける音響システムの新世代フラッグシップ ヤマハ デジタル・ミキシング・システム『RIVAGE PM10』



(2015年中の発売を予定)

- ◇サウンドクオリティ、操作性、機能、信頼性、拡張性など、あらゆる要素を徹底的に磨き抜いた、真のフラッグシップ
- ◇世界が認める「PM」の名にふさわしい新世代のミキシングシステムが、進化を続ける現代のPAシーンに次なる革新をもたらします。

革新的な操作性を実現した新世代デジタルミキサー ヤマハ デジタルミキシングコンソール『TFシリーズ』



(2015年6月発売)

- ◇デジタルコンソールの操作性をより快適にする『TouchFlow Operation™』
(タッチパネルに最適化した直感的なユーザーインターフェース)
- ◇幅広い用途で活躍し、規模や目的に合わせて選べるラインアップ

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。